

課題

- 府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。
- 小中学校ともに、言語能力の育成に向けて、読書活動の推進や学校図書館を活用した授業づくりに取り組むことが必要。

事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、言語能力の育成を図る。事業実施校には、学校図書館活用に造詣の深いスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組みを広く普及させ、府域の学校図書館の活用及び読書活動の推進を図る。

取組実施地域・学校の指定

池田市、豊能町、吹田市、茨木市、守口市、大東市、四條畷市、東大阪市、八尾市、松原市、藤井寺市、大阪狭山市、高石市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、阪南市

【17市町】

小学校17校 中学校3校

実施内容

【大阪府の取組み】

- 事業実施校に担当教員を配置
- 事業実施校へスーパーバイザーを派遣
- 事業実施市町への指導・助言



専門的な知見や研究実績を有するスーパーバイザー(学識等)を年に2回派遣し、校内研修や授業研究会で指導・助言を実施。

【市町村の取組み】

- 事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
- 事業実施校の進捗管理及び訪問支援
- 事業実施校の公開授業及び校内研修支援

【事業実施校の取組み】

- 言語能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践及び読書活動の推進
- 児童生徒が主体となった読書活動の推進
- 公開授業、校内研究の推進、学校HP等を通じた取組みの普及・発信
- 学校図書館を活用した実践事例の作成



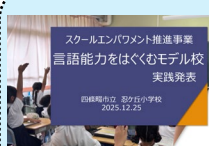
図書委員会が紹介したい本を校内に設置

学校図書館を積極的に活用した授業を実施



【研究成果の普及・発信】

- 事業実施校への学校公開参加者 1,700名
- フォーラムでの分科会の実施
- 事業実施校の取組みを府教育庁HPに掲載



事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ広く普及・発信
フォーラム参加 217名

成果

【令和7年度学校図書館活用授業実践事例数】

小学校 22事例 中学校 3事例 合計 25事例
(令和8年2月時点)

- 学校図書館活用授業の実践事例を府域へ発信、さまざまな教科等で言語能力をはぐくむ授業づくりを普及。



【取組み成果リーフレット】

小学校 17事例 中学校 3事例 合計20事例
(令和8年2月時点)

- 事業実施校における特徴的な取組みをまとめたものとして作成し、その成果をウェブアップ。



【児童・生徒アンケート】 (小・中学校)

	令和6年 12月(%)	令和7年 12月(%)
ふだん、1日に教科書以外の本を全く読まない(本には、漫画や雑誌を含む)	29.6	25.3
わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている。	70.9	79.1
話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読みだり聞いたりしている。	72.7	83.2
文章を書いた後には、読み手に内容が正確に伝わるかどうか、ことばの見直しをしている	71.8	81.2

課題

- ① 図書館利用の減少
放課後活動の多様化と開館時間の制約により、図書館利用が減少している。
- ② 多言語読書環境と資料活用への対応
海外にルーツを持つ生徒の増加に対し、多言語で読書に取り組める環境や専門的資料に触れる機会が十分ではない。
- ③ 社会とつながる文章への接触機会の減少
新聞購読家庭の減少により、社会の動きを伝える実用的な文章に触れる機会が少ない。
- ④ 読書と学力育成の結び付きの弱さ
読書活動が読解力や表現力の育成に十分に生かされていない。

事業のねらい

- ① ICTを活用した読書環境の充実と地域連携の推進
タブレットを活用し、時間や場所にとらわれない読書環境を整えるとともに、図書館を地域に開き、本校から日本文化を発信する拠点とする。
- ② 翻訳機能や外部図書館活用で多言語読書の推進
海外にルーツを持つ生徒が翻訳ツールを活用して読書に取り組める環境を整えるとともに、外部図書館のデジタル資料や併設大学図書館を活用し、多様で専門的な資料に触れる機会を広げる。
- ③ 社会とつながる読書活動の推進
デジタル新聞記事を活用し、社会の動きを読み取る読書活動を推進する。
- ④ 読書を通じた言語能力の育成
読書活動を読解力や表現力の向上につなげる。

取組実施地域・学校の指定

神戸山手グローバル
中学校高等学校



実施内容

①朝の読書 シェア図書館（日本文化体験・発信）



各自のタブレットで青空文庫等の電子書籍を読む。海外ルーツ生は翻訳アプリを活用し日本語作品を読み、日本人生徒は英語作品にも触れる。あわせて図書館を地域の交流の場とする「シェア図書館」を年6回実施し、本校から日本文化を発信する拠点とした。

②大阪市立中央図書館デジタル書籍利用・見学 併設大学図書館ツアー



大阪市立中央図書館のデジタル書籍を利用するとともに、併設大学図書館ツアーを実施した。希望者による中央図書館見学も行い、言語の壁を越えて多様で専門的な資料に触れる機会を広げた。

③サマライズタイム



毎日新聞のアプリを活用し、学年に応じたデジタル新聞記事を読み要約する。本校独自の「サマライズタイム」として定期的な実施し、生成AIによる添削で自分の要約の課題を確認する。継続的な活動を通して、社会への関心を高めるとともに、読解力と要約力の向上を図った。

④校内読書感想文コンクール 全校ビブリオバトル大会

読書感想文コンクールと全校ビブリオバトルを実施。海外ルーツ生も日本語で発表し、優秀作品は兵庫県コンクールへ出品、優秀者は外部ビブリオバトルに参加する。



成果

○アントレプレナーシップ・プログラム 高校生Ring(リクルート)セミファイナリスト



高校1・2年生が応募したリクルート高校生リング2025において、全国167校34,206人の応募の中から、本校生1組が30組の**セミファイナリスト**に選出された。また「半径5mの問い100選」では**3組が入賞**した。サマライズタイムによる要約力の向上や、読書活動を通じた表現力の育成が、探究活動の成果として表れている。

○第53回 兵庫県私立学校読書感想文コンクール入選 全校ビブリオバトル大会

読書感想文コンクールでは、**中学3名、高校2名が入選**し、高校1名が佳作。全校ビブリオバトルでは、**中学で最優秀賞1名・優秀賞1名、高校で最優秀賞3名・優秀賞2名**を輩出。高校最優秀賞者の内2名は海外ルーツ生であり、多様な背景を持つ生徒が日本語で読書活動に取り組む成果が見られた。



○海外生の日本語レベル向上(2025年度)

	N4以下	N3	N2	N1
4月	88%	10%	2%	0%
7月	55%	22%	19%	3%

○本校図書館情報

蔵書数昨対 約26%増 現在約88,000冊
2025年度貸出冊数 11%増
シェア図書館開催回数 6回

課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面においてこどもが読書活動を行う上での課題



事業のねらい

(1) 朗読や絵本の読み聞かせ、また小学生が「好きな本」「読みたい本」コーナーを設置し、小学生の読書への興味・関心を高めることを目指し、効果の測定を行う

(2) 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもに対して本を介したコミュニケーションを取り、小学生、中学生における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う

(3) 上記の取組に対し県が設置する企画運営委員会内での助言や、県立図書館から外部講師派遣などの支援を行うことで、自治体での取組の参考になるよう検討を行う

実施内容

① ボランティアによる読み聞かせやコーナー設置の取組 (かつらぎ町へ再委託)

【主な対象】

かつらぎ町内の小学校等（5校）

【取組内容】

- ・ボランティアによる朗読及び読み聞かせ
- ・小学生にアンケートを実施、本の紹介POPの募集、コーナー紹介のチラシを町内の小学生を中心に配布
- ・応募があったPOPを図書館に掲示（12名の応募あり）



② 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもへの取組 (那智勝浦町へ再委託)

【対象】

那智勝浦町内の学童保育所5か所
登校に不安を抱えるこども
で青少年センターの学習指導に通う児童・生徒14名

【取組内容】

- ・読んでみたい本の希望を取り、町内学童保育に配本
- ・こどもが好きな時間に読むことができるよう配置
- ・図書館司書による絵本の読み聞かせの実施



③ 取組への助言や図書貸出の支援（和歌山県が実施）

上記、2町での再委託事業に対する助言。また、昨年度はかつらぎ町、今年度は那智勝浦町への視察を実施。
県立図書館から外部講師派遣の実施

成果・課題

【成果】

●ボランティアによる朗読読み聞かせやコーナー設置の取組

（図書館でのコーナー設置に関する取組）

- ・チラシの配布とこどもたちのPOPを設置することで、読書に興味を持つきっかけづくりとなった

（ボランティアによる朗読及び読み聞かせ）

- ・朗読放送の本を手にとったり、関連コーナーで立ち止まって読んでいるこどもの増加が見られた

●学童保育所での取組

- ・各学童保育所ともに児童が本に興味を示す姿が見られた。また、学童保育所職員と児童生徒と一緒に読書をする姿も見受けられた

【課題】

●ボランティアによる読み聞かせやコーナー設置の取組

- ・不読者を少しでも減らすため、読書のきっかけづくりとなるような取組内容の検討
- ・ボランティアや小学校等と連携し、こども達が本に触れられる場所や時間の検討

●学童保育所での取組

- ・小学校でのこどもたちの読書状況の情報を共有し、選書の工夫の検討

課題

①知的障害の特性によっては、十分本に親しむことができないことがある。そのため、本に親しんだり、興味をもったりするためには、実態把握に基づき障害の状態等を踏まえた取組の工夫が必要である。

②読書の意義や価値を実感しているかを把握する必要があるが、知的障害のある児童生徒においては言語的応答(質問紙調査・聞き取り調査)への困難性があることもあるため、障害の状態等に応じた評価モデルの開発が必要である。

事業のねらい

①すべての児童生徒が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるよう、一人ひとりにとって適した取組の推進とその効果を明らかにする。

②知的障害がある児童生徒の本への親しみを明らかにする評価モデルの開発・提案を行う。

取組実施校

- 金沢大学附属特別支援学校
(石川県金沢市東兼六町2-10)
・令和3～6年度
文部科学省「研究開発学校」
・平成30～令和2年度
文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」

※本資料の「読書」には「読み聞かせ」を含む。

実施内容

① 読書の取組(小学部・中学部・高等部)

- ・児童生徒が「自らの好みに合った読書」ができる指導計画・環境の設定



生活動線上に本を配置
(好みの場所の選択)

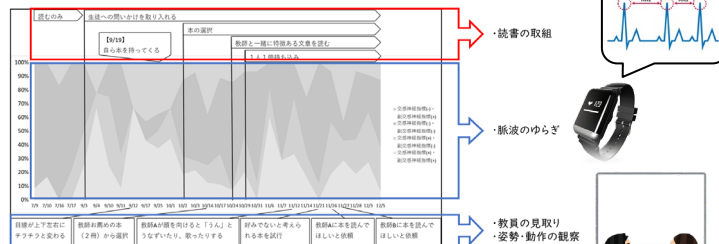


本の向き合い方に応じた選書・
指導方法(好みの読み方の選択)



② 評価・改善の取組(校内研究会)

- ・行動観察(記録)と身体情報(身体動作記録・脈波計測)によって、取組の効果を検証



様々な評価方法を用いて児童生徒の状況を把握

③ 講演会・研究会の実施/関係機関との連携

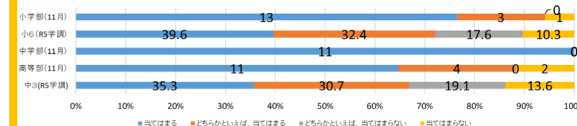
事業	関係機関	参加者数
夏季教育講演会	講師：猪原敬介氏	131
冬季教育講演会	講師：野口武悟氏 協力：石川県立図書館	91
教育研究会	講師：滝口圭子氏 講評：丹野哲也氏 話題提供：附属学校園4校	154



結果

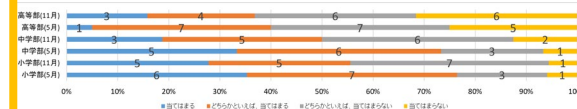
① 読書に対する意識

- ・「読書は好きですか」(児童生徒)



読書に対して肯定的回答が多く、同世代と比較しても高い。しかし、保護者の結果との間に乖離が見られた。

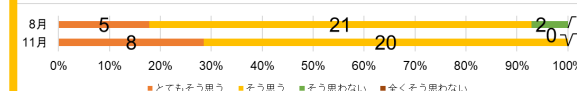
- ・「お子さんは読書が好きですか」(保護者)



読書に対して肯定的な回答割合が減少したが、自由回答では肯定的なエピソードが挙がるようになった。

② 読書の取組改善

- ・「読書の理解は深まったか」(教職員)



読書に対する理解が深まると共に、児童生徒の適切な実態把握に基づく指導改善を図ることができた。

成果と課題

- ①評価・改善を繰り返す中で有効だった取組を整理すると、自己決定理論における心理的欲求を充足・促進する環境要因と重なる点を見出すことができた。
- ②複数の方法を用いて取組の効果を検証することで、取組の適切な改善につながった。

課題

- 全国平均と比べ、
①子どもの不読率が高い
②読書好きな子どもの割合が低い

事業のねらい

地域の図書館や地域人材の力を活用して、地域と学校が連携しながら、子どもが本に向きあう機会づくりにつながる事業をモデル実施する。

事業モデルを通じて、子どもの読書への興味・関心を、ソフト・ハードの両面から高める手法を確立する。

取組実施地域・学校の指定

多可町
(人口18,463人、R7年4月)

令和6年度モデル事業再受託。令和7年4月、図書館をリニューアルオープン。



実施内容

①企画運営委員会の設置



委員会を通じて多くの助言が得られ、事業の効果的な実施に向けた検討や、成果や課題の有効な検証の場となった。

②発達段階に応じた、不読率低減の取組（再委託）



- 町立図書館の取組
 - ・町立図書館団体貸出の充実
 - ・学校図書館活用に係る校内研修への職員派遣
 - ・学校委員会活動への地域人材派遣



- 学校における取組
 - ・小学生を対象とした電子書籍読み放題サービスの活用
 - ・地域人材（おはなしサークル「あいあい」）を活用した出張読み聞かせ会の実施

③ひょうご子ども読書活動推進フォーラムの実施

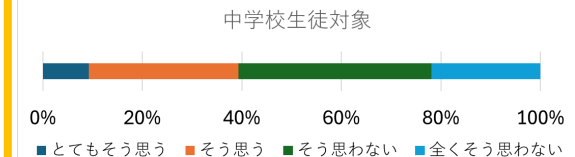
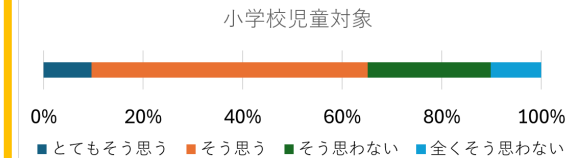


- ・ワークショップ「ミニ・ビブリオバトル」を実施
- ・読書活動における統計的研究の第一人者である北里大学猪原敬介氏を招聘

成果

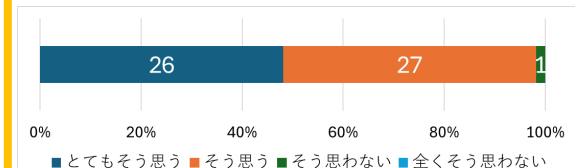
○多可町読書活動推進事業

昨年度と比較して、読書への興味は深まりましたか。



○読書活動推進フォーラム

研修会前と比較して、学校図書館等の活用について理解が深まりましたか。



○読書の総量（電子・紙）の変化

多可町調べ	R6	R7
アプリ(電子)	43冊	47冊
学校図書貸出 小学校	15.1冊	14.5冊
学校図書貸出 中学校	2.3冊	3.4冊

課題

- 児童生徒の読書時間の減少
(令和7年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問用紙より)
- 学校図書館教育担当者の資質能力向上



事業のねらい

- 学校図書館の利活用及び児童生徒の読書時間の増加
- 推進協力校の還流による市内小中学校の学校図書館の取組の活性化



取組実施地域・学校の指定

名張市立北中学校
読書活動推進事業

実施内容

①学校図書館担当者研修



講座では、読み聞かせの意義や工夫、本を読むことで語彙数を増やすことができる等、「生きる力」や学力向上の礎になっていることを学んだ。

②子ども読書活動推進研修講座 ・図書館ボランティア研修講座



学校ボランティアや学校司書等の資質向上を図り、学校図書館の充実を図るため、講座を実施した。

③ジュニア司書養成講座



司書の仕事を体験し、本の良さについて学習すること、読書についての関心を高めることを目的とし、講座を実施した。

④ファミリー読書感想文コンクール



家族等と同じ図書について話をする事により、図書への関心を高め、家族とのコミュニケーションを深めることを目的として、ファミリー読書感想文コンクールを実施した。

成果

○学校図書館担当者研修

図書館教育担当者や学校司書を対象とした研修講座を開催し、読み聞かせの意義や工夫、本を読むことで語彙数を増やすことができる等、「生きる力」や学力の向上になっていることを知り、担当者の意識を高めた。

○子ども読書活動推進研修講座 ・図書館ボランティア堅守講座

学校ボランティアを対象とした研修講座では、ボランティア同士が情報交換し、活動や実践の幅を広げることで地域と学校をつなぐ取組となった。

○ジュニア司書養成講座

名張市立図書館と共催でジュニア司書養成講座を実施し、参加者は読書や司書の仕事について関心を高めた。

○ファミリー読書感想文コンクール

ファミリー読書感想文コンクールを開催し、読書を通じて、家族や友人とコミュニケーションを深め、その人の新たな一面を知ることができた。

○読書が好きな生徒の増加

推進協力校の北中学校では、「読書が好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。

	読書は好きですか (肯定的回答)
令和7年 5月	58%
令和8年 2月	59%

課題

★自治体の教育行政の重要事項や基本方針を決定する教育委員会教育長、教育委員、指導主事が、学校図書館の機能、司書教諭・学校司書の果たす役割を十分に理解していない

事業のねらい

○自治体の教育行政の重要事項や基本方針を決定する教育長・教育委員を含め、教育委員会意識が、学校図書館行政促進に向けられることを意図したパンフレットを作成し、啓発する。

- 1) 教育委員会を訪問し、ヒアリング及び自治体主催の司書教諭・学校司書等の研修会講師として参加し、情報を収集
- 2) パンフレット(案)作成
- 3) 学校図書館指導主事研修会を開催しパンフレット案を説明。参加者からの意見聴取
➡多様な意見を参考に修正して完成
- 3) パンフレットを教育委員会等に送付及び全国SLAのWebサイトに掲載し広報

実施内容

①教育委員会訪問及びヒアリング

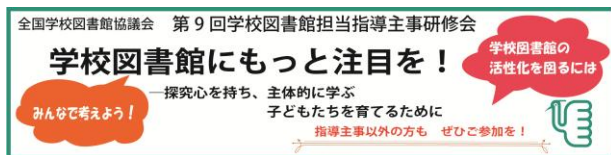
長野県茅野市教育委員会／日野市教育委員会／新潟市学校図書館支援センター／新潟県高等学校図書館協議会研究大会／柏市教育委員会／千葉県教育委員会／杉並区学校司書研修会／新潟県高等学校図書館協議会研究大会／横浜市学校司書研修会／文部科学省・坪田知広氏

<教育委員会への工夫例>

- 「探究学習アドバイザー」など、学校図書館活用の学びのための専門の担当者において、指導主事と協働する。
- 年度当初の校長会で、学校図書館長の任命書を校長に渡す。
- 学校評価に授業で図書館を活用した回数なども入れる。
- 学校のサイトに学校図書館のページを設定するように促す。
- 学校図書館担当者とICT教育担当者と連携・協働して、学校図書館年間指導計画と情報教育年間計画を統合する。

②パンフレット案を作成

③「学校図書館指導主事研修会:もっと学校図書館に注目を!」を開催・・・意見聴取➡パンフレット案修正



1.講演:教育行政に携わって学校図書館への期待 文部科学省教育改革調整官 坪田知広氏

2.パンフレット案紹介

3.グループディスカッション

①学校図書館活性化を図るために行政にどう働きかけるか

②パンフレット案への意見や要望について



成果

学びの中心に学校図書館を!

生きる力を培う学校図書館

○教育現場の課題に役立つ!

- ・情報社会の課題に!
- ・多様性への対応!
- ・主体的・対話的な学びに!

○発達段階や個に応じた多様なグレード

- ・分野などバリアフリーにも対応!

○すべての学びの基礎は「読む力」

今こそ、いっそう読む力の育成を

○教育委員会ができること・すべきこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」を進めるために
- ・学校図書館施策を効率的に進めるために
- ・学校図書館を活用して学びを豊かにするために
- ・学校への指導のために

★生きる力の「根っこ」を育てるのは
学校図書館です!

- ・都道府県SLAへの送付
- ・都道府県、政令指定都市の教育委員会へ送付
- ・全国SLAのWEBサイトからDL可
- ・機関誌『学校図書館』メールマガジン等での広報
- ・教育系新聞にプレスリリース
- ・研修会、大会等で配付



課題

○学校図書館が「情報センター」「学習センター」として十分に機能するために必要な資料の整備が不十分である。また、内容が古くなった図書資料を多く保有しているなど、蔵書の更新が計画的に行われていない状況にあり、学習者のニーズに十分に答えられていない。

○学校司書においては、各市町村により違いがあるが、1人で複数校を巡回していることが多い。

事業のねらい

○学校司書及び学校図書館担当教員等を対象とした研修を実施することで資質・能力の向上を図るとともに、これから求められる学校図書館の在り方を考えることによって、図書の整備状況の点検・更新等を促進する。

○「主体的・対話的で深い学び」を効果的に進める基盤としての役割を担う学校図書館の在り方や、学校司書の有用性等を県内に広く普及する。

取組実施地域・学校の指定

和歌山市立日進中学校

和歌山市立宮小学校

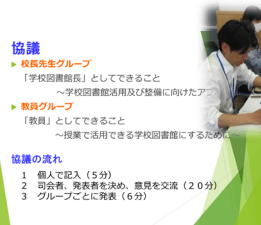
(令和3年度子供の読書活動優秀実践校)

和歌山市立太田小学校

(令和2年度子供の読書活動優秀実践校)

実施内容

①企画運営委員会の実施



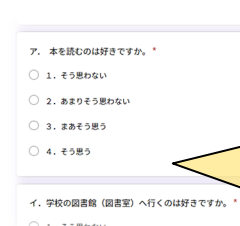
自走していく学校図書館にするための取組について「学校図書館長」グループと「教員」グループに分かれて協議を行った。現在の状況(課題等)から、今年度の取組について、意見交流と検討を行った。

②これから求められる学校図書館づくり研修会①、②



学校司書等を対象に、学校図書館のこれからの在り方について研修を行った。参加者は、未来を見据えた選書と学校図書館の機能に合わせた選書のツボを学び、自校の学校図書館について分析を行った。

③アンケート調査の実施



和歌山市内の小中学校及び義務教育学校の小学3年生～中学3年生を対象にアンケート調査を実施(7月、12月)。結果を踏まえ、研究校で作成した資料を市内の全小中学校に提供することで、各校の学校図書館の活用を促進した。

④学校図書館長研修会の実施



和歌山市内全小中学校及び義務教育学校の学校図書館長を対象に、講師を招聘して研修を行った。学校図書館を活用することの有用性を共に学ぶことで、図書館機能の強化を促進した。

成果

○学校図書館活用に向けた取組

・学校図書館機能向上を図るため、選書の観点について学ぶ機会を設けた。
・自校の学校図書館や今までの取組を振り返ることで、新たな視点と今後の方向性を明確にすることができた。



○読書活動推進の土台の構築

学校図書館運営の要となる学校図書館長を対象に研修を行い、学校図書館の役割や活用することの有用性、具体的な実践例等を市内の各学校へ広めることができた。

○総合的な学習の時間における学校図書館及び図書館資料を活用した授業の実施頻度 (和歌山市内の小学校において月に1回以上活用した割合)

R6年度	R7年度
41.2	56.9

○本に親しむ取組を行った後の児童の興味・関心 (和歌山市の小学校において肯定的回答を行った割合)

R6年度	R7年度
84.3	92.2

学校図書館教育実施状況調査票(小学校)より

小学校では成果が見られたが、中学校では大きな成果には至っていない。今後も学校図書館の活用促進に取り組み、授業連携や環境整備を進めることで、より確かな成果につなげていく。

課題

- 校内における学校図書館の位置や豊富な蔵書量といった環境に恵まれ、教師による図書資料を使った授業や活動が多いが、児童の読書量は十分ではない。
- 語彙力が十分でなく、書くことが苦手であるという児童の実態がある。



事業のねらい

- 図書ボランティア・図書委員会・学校司書・教職員・PTAが一体となり読書活動を進める。
- 県指定「読み解く力」の育成研究推進事業と併せて、図書を活用し、書く力を伸ばす授業づくりを研究する。

近江八幡市立金田小学校



実施内容

①全校行事「図書館まつり」の開催



本に興味のない児童も学校図書館に足を運ぶきっかけとなるように、図書ボランティア・図書委員会・学校司書・教職員が連携を図り、図書館まつりを実施した。

②図書委員会による取組



図書委員が1年生や校区内の幼稚園・保育園・こども園を訪問し、読み聞かせを行った。

③PTA活動とタイアップした「家読週間」の実施



PTA活動と共同して、年間2回の「家読週間」を実施した。取組の感想を学校だよりに掲載し、学校図書館前にも掲示した。

④図書を活用し「書く力」を伸ばす授業改善



1年生国語科「1-2図書館を作ろう」で、昔話を読み、あらすじを書くことを繰り返した。出来事を考えて、おはなしづくりに取り組んだ。

成果

○共有機会の増加による連携の強化

読書についての課題を学校司書・図書ボランティア・教職員・PTAで共有・協議する機会を、定期的かつ複数回回設けた。また、年間を通して、子どもの読書機会を作り出すなど、図書を活用した取組が一層促進された。

【共有の機会】

- ・図書館担当者連携会議：年間3回
- ・図書ボランティア会議：年間3回

【連携の強化】

- ・PTA家読週間：年間2回
- ・幼・保・子ども園との連携
- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせ：週2回
- ・教員による読み聞かせ：月2回

○全校貸出冊数の増加（4～12月）

R6年度	9,230冊
R7年度	11,198冊

○学校司書を授業で活用する時数（4～12月）

R6年度	273時間
R7年度	451時間



課題

- 生徒たちは、家庭で読書する習慣や図書を利用して学習する習慣が少なく、興味をもてる本に出会えないという読書への悩みをもっている。
- 学校図書館内に教師が選定した図書教材はあるものの、それらを活用した授業が少ない。



事業のねらい

- 「おすすめの本」を伝える取組により、生徒が興味をもてる本と出会う機会をつくる。
- 図書委員会の活動を充実させ、本に親しめる環境をつくることで、学校図書館の利用を促す。
- 教師が学校図書館に足を運ぶことで、生徒が図書に触れやすい環境を整える。

近江八幡市立安土中学校



実施内容

①図書委員会による「安中読書週間」の実施



朝読書が充実するように、担任による「おすすめの本」の紹介や、図書委員会の企画による本のタイトル集めゲーム、学校図書館でのしおりづくりのイベントを実施した。

②ビブリオバトルの実施



学級での予選会を経て、学年ごとにビブリオバトルを実施した。質問や感想が出やすいように図書委員が中心となって企画・運営を行った。聞き手からも意欲的に質問や感想が寄せられた。

③授業での図書の活用



国語科のビブリオバトルや古典の単元、理科の自由研究、社会の歴史の単元などで、学校司書に相談しながら参考資料として図書を用意して活用した。

④学校司書・地域人材の活用



地域ボランティアによる朝読書時の読み聞かせ、学校図書館開館時の見守り等を行った。

成果

○生徒の読書活動への意識の向上



ビブリオバトルで紹介された本を展示することで、興味を持った本と出合える機会となった。普段の展示と比べ、多くの生徒が本を手にする様子が見られた。

「おすすめの本」紹介で本を読み たくなるか	9月	12月
読みたいと思う	47.8%	66.7%

○教職員の図書館利用の増加



学年の廊下に、行事に合わせた本の展示や授業の関連本の展示が増えた。

授業における教師の学校図書館 の利用	9月	12月
授業で利用した	64.3%	90%

課題

- ・すべての附属学校が、学校図書館を活用し、今日的な課題を扱った授業を実践する。
- ・学校司書のための研修プログラムの企画・実施・効果の検証
- ・「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」の普及
- ・文科省報告会の実施

事業のねらい

- ・学校図書館図書の購入促進のために、どのような資料が、授業に役立つかを示すことがねらい。今年度は図書資料とともに、電子書籍やオンラインデータベース等の電子媒体も併用し、資料の使い分けや児童生徒の使い勝手等を検証する。併せて、学校図書館を活用した授業の具体例を示すことで、学校図書館の活用への理解を深める。
- ・研修においては、「生成AIと著作権」「これからの学校図書館」について学び、読書や探究学習における資料選定の意義や生成AI時代に学校図書館が果たす役割について学ぶ。
- ・データベースの普及と事業報告会を実施することで、学校図書館の授業活用への理解を広める。

実施内容

①文科省事業報告会にて2校が授業実践を発表

- ・附属竹早小学校：「国語科における詩の学習を中心とした授業実践」
- ・附属世田谷中学校：「図書館の拡張と読書推進～「ものづくり」から「ことづくり」へ～ 国語×美術×図書館」

教員・児童生徒へのアンケートの実施

- ・実践発表校の学習者・授業者を対象に、学校図書館を活用する授業を通じた読書・情報活動への意識の変化を問うアンケートを実施。
- ・紙の本と電子書籍の好みや利用頻度、読書・情報活動を通じて感じる自身の変化等を問い、言語化・数値化。

②研修（対面とオンラインでの実施）7/30・31

- ・東京学芸大学学校図書館運営専門委員会著作権アドバイザーを迎え、「生成AIと著作権」と題し、学校図書館業務に携わる上で知っておきたい著作権の知識を学ぶ。
- ・北欧の図書館を例に、資料選定や空間づくりについて講義を受け、参加者で話し合う。

③データベースの普及

- ・令和5年度から引き続き、他団体（BookReach Idig Edu等）と連携し、更なる発信を行う。



成果

授業実践&報告会

- ・データベースへ附属学校の授業実践を10事例アップ。
- ・報告会の参加者からは、教科横断授業や電子書籍を活用した学習、生成AIについて学びが深まったとの感想が多く寄せられた。
- ★当日申込約150名、見逃し配信約100名

アンケートから見える図書館活用

- ・低年齢からタブレット端末に触れている学年ほど電子書籍への抵抗がない
- ・抽象的なものを言語化する際の解像度、メディアリテラシー等が読書・情報活動で育まれていることを実感

研修

- ・生成AIが浸透する中での著作権教育、これからの学校図書館のあるべき姿についての考察など、専門家を交えて今必要な知識を深めることができた。（申込者 2日間で136名）

データベースの普及と更新

大学で司書教諭や司書に関わる授業でも本データベースが活用されていることが分かり、さらなる普及とデータの適切な更新が求められている。

※令和7年度年間アクセス数 817,863